

2026年(令和8年)3月19日(木曜日)



奈良教諭名に目録を手渡す細井准教授(秋田職能短大)

ニホンザリガニ

今後の研究に生かして

秋田職能短大

鳳鳴高に3匹譲渡

秋田職能能力開発短期大学(中村雅英校長)は17日、校内で飼育してきたニホンザリガニ3匹を大館鳳鳴高校に譲渡した。飼育のために使用してきた水槽3個も貸し出し、今後の人工繁殖研究に生かしてもらおうことを願った。大館市の一部区域がニホンザリガニの南限生息地として国の天然記念物に指定されており、市は指定地保護と個体数維持に向けた取り組みを行っている。

同短大では8年ほど前、「取り組みに協力したい」とニホンザリガニの飼育を始めた。技術を生かして、1年間の水温を自動調節する「自動環境管理システム」などを開発。飼育をしながら、人工繁殖などの研究を行ってきた。担当教員が代わっても業務の一環で飼育を続けてきたが、この春の人事異動で困難になり、同じく人工繁殖研究などを行う鳳鳴高生物部に譲渡することにした。譲り渡すのは雄2匹、雌1匹で、体長6〜10センチ。水槽3個も貸与する。

同短大で譲渡式を行い、飼育を担当してきた細井准教授が、鳳鳴高生物部の顧問、奈良奈津子教諭に目録を手渡した。「鳳鳴高に引き継いでほしい。元気に育ってくれば」と述べた。

同部は人工繁殖で昨年夏にふ化した稚ザリガニ20数匹を

含む約20匹を飼育。人工生息地での個体数調査など市の取り組みにも協力している。奈良教諭は「ザリガニのみならず、立派な水槽も非常にありがたい。大事に育てて、繁殖を成功させたい」と語った。